

医療安全推進における患者安全と医療者安全の課題

酒井亮二

国際医療安全推進機構(MSPO)理事長

国際医療リスクマネジメント学会(IARMM)理事長

米国の医療界では21世紀当初から、医療における安全として患者安全のみをスローガンとしてきた。

しかしながら、医療者に対する安全活動が患者安全に有益とも言われている。

最近、「米国では医療従事者安全に関する研究が極めて少ない中で、患者安全活動における優れたリーダーシップのある医療機関において医療従事者安全活動も良好である」との全国調査がなされた。

つまり、熱心なリーダーは患者安全活動と医療者安全活動の双方の活動を手当てしているということである。

一方、日本医療界では21世紀当初から患者安全と医療者安全の双方が必要であるとして、医療安全(medical safety ないし healthcare safety)という用語がスローガンとされてきた。

医療者安全の課題として、針刺し事故、抗がん剤暴露、医療従事者の自殺などのメンタルヘルス、カタマーハラスメントなど取り上げてきました。これらは安全のリーダーシップだけですべて解決できるのだろうか？

医療者安全も患者安全と同様に医療機関全体の問題としてきめ細かく手当てしていくことが必須である。